

札幌商工会議所  
業界動向調査結果（6月）

札幌市及び道内の主な経済概況

平成19年9月

札幌商工会議所 総合企画部

札幌商工会議所  
業界動向調査

調 査 概 要

- 趣 旨 本制度は、市内主要企業にご依頼し、各業界の動向をお聞かせ頂き当所の諸事業に反映させる一方、会員・部会役員への情報提供の資料として活用致します。
- 札幌市を代表する13社（総括含む）から動向を聞き、結果を主要指標の動向と共に「札幌市及び道内の最近の経済概況」として取り纏め、公表するものです。
- 調査内容 ①今月の業界動向について  
a. 各部門の対前年同期比売上の推移 b. 取扱量の推移 c. 季節的要因  
②先行きへの見通し及びその要因  
(売上・取扱量の推移、季節的要因などから得られる、先行2～3ヶ月の予測)  
③トピックス  
a. 社会・国際情勢による変動 b. 新技術事情 c. 業界再編の動向
- 調査方法 調査は隔月で実施

6 月 調 査 結 果

《総 括(5-6月期)》

道内景気は、設備投資は底堅く推移しているものの、原油価格の高止まりに伴う原材料価格の上昇が企業収益を圧迫しているほか個人消費も弱めの動きとなるなど、横ばい圏内で推移している。

設備投資は、大手製造業の能力増強投資のほか、道内企業の投資マインドにも幾分改善がみられ前年を上回って推移している。住宅投資では、5月の新設住宅着工戸数は前月が高い伸びとなった反動もあり、前年比32.4%減となった。利用関係別では、持ち家が3ヶ月ぶりに減少したほか、貸家と分譲はそれぞれ2ヶ月ぶりに減少した。個人消費は、5月の大型小売店売上高は既存店ベースでは前年比1.7%減、全店ベースでは同1.9%減となった。業態別（既存店ベース）では、百貨店は、中旬以降低めの気温が続き夏物衣料の売れ行きが低迷した。スーパーは、飲食料品は底堅く推移したものの衣料品が落ち込んだ。観光関連では、6月の来道客数は同0.1%減と3ヶ月連続で前年を下回った。前年の航空運賃低下による客数増加の反動がみられる。公共投資では、6月の公共工事請負金額は、財政面の制約もあり国、道および市町村からの発注が前年を下回り同16.6%減と3ヶ月連続で減少した。

一方、5月の鉱工業生産指数は前年比0.2%増と8ヶ月連続して上昇した。金属製品工業などで低下したものの、一般機械工業、輸送機械工業などで上昇した。雇用情勢では、5月の有効求人倍率（常用）は、前年比0.01ポイント上昇し0.48倍となった。新規求人数は製造業、卸売・小売業で低下したが、建設業、医療、福祉などで増加した。6月の企業倒産は、件数では前年比10.9%増、負債総額では大口倒産の発生により同133.4%増となり、幾分増加傾向にある。

## 《6月の業界動向》

### 建設業界

公共事業への投資削減策の継続から、官庁工事の建築、土木ともに不調となっている。反面、民間の一棟売りマンション建築と宅地造成工事の売上もあって横ばいである。受注工事は、小口化かつ量的にも減少している。

先行きについては、官庁工事は、建設が横這い、土木は減少と予想している。民間工事はマンション建設は一段落、戸建住宅回帰を想定、引き続き宅地造成工事を計画

中。  
建設業界では、原油高、中国情勢の影響をもろに受け、原材料・労務費の高騰から収益面の圧迫が懸念される。また、一部、入札の方法に問題があるととり沙汰されている。収益が取れず深刻である。

### 住宅業界

当社が主力としている「注文住宅」は、過去45年の統計を見ても「史上最悪」の様相を呈している。注文住宅、分譲戸建住宅ともに数的には昨年度並を維持しているが、一棟の単価が若干下がっている。

北海道での住宅業界は、冬場の施工が極端に少ない季節的要因があるが、夏本番の現在も例年ほどの伸びを実感できていない。

先行きの見通しとしては、一次取得者向け新商品を発売したことにより、注文住宅の受注、売上とも若干回復基調であり、不動産部門の仲介取扱量に関しては、前年と同程度で推移している。

お盆商戦を控え、注文住宅に関しては降雪前入居のラストチャンスとなり、取扱量も増えるので今後期待している。

社会・国際情勢による変動としては、資材・設備等の価格の上昇、客先価格転嫁もやむを得ない。しかし、単純な値上げを避け、お客様には付加価値を提供している。その他、暖房・給湯熱源の変化（オール電化の割合増）、消費税アップ確定、ローン金利上昇局面によるお客様の購買意欲への影響、土地価格の二極化（地方下落、都市部は上昇）などが挙げられる。

新技術事情としては、近年の地震多発を受け、耐震を売りにした商品が多い。リフォームも同様である。

業界再編の動向としては、M&Aしにくい業種（顧客は引き継げず、メンテナンスのみ）、自己資本の厳しい企業は倒産へ。

### 貨物運送業界

6月と前年同月を比較すると、取扱量はほぼ変わらず。売上は特積部門がやや落ち着いているものの、全体としては微増となった。また、前月と比較すると、取扱量は全体的に増加となった。特に、通運部門で数量が伸びており、売上高もほぼ全ての部門で増加となっている。

今後2~3ヶ月については、農産物等が動く時期でもあり、売上・取扱量ともさらに増えていくと思われる。

## 機械関連業界

6月の売上は、前年比20.7%減少、前月比35.1%減少した。6月は、まとまった物件もなく大きな売上はなかった。8月納期品が多く受注残が増えている。

先行きへの見通しとしては、素材における合金鉄の値上がりが一休みし、ステンレス鋼材は安定しているように見える。しかし、スクラップが高値安定で推移している為、まだまだ油断が出来ない。素材高は続くと思われる。8月工事へ向けての物件で一部工場は忙しい。

今年は、自動車関連企業が道内進出してきており、道内からの部品調達に期待が寄せられているが、品質・納期が厳しく容易には参入が出来ない状況。中小企業の創意工夫が大切だが、北海道などの官が中心となって参入への足がかりを作ってゆくことも大事だと考える。

## 情報関連

6月の売上は、前年同月比で20%程度の売上増加となった。増加の要因としては、首都圏でのソフトウェア開発の受注が依然として好調なことが挙げられる。特に携帯電話向けの開発や大手企業向けのソフトウェア開発案件の増加が追い風となっている。一方、道内市場では官公庁・自治体を中心として需要が低迷している状況に変化はなく、一部の民間企業で大規模な設備投資が見られるものの、景気の回復は未だ実感できない状況にある。

今後も首都圏における携帯電話関連やインターネット関連等の通信業にかかわるソフトウェア開発が会社の業績を牽引していくものと予想される。受注が横ばいもしくは低迷することが予想される道内市場において、今後どのような切り口から営業活動を展開していくかが課題となると思われる。

家電・携帯電話を中心とした組み込みソフトウェアやオープンソースソフトウェアの受注が拡大傾向にある。今後はNGN（次世代ネットワーク）関連やセキュリティ関連、RFID技術を利用した非接触型のICタグの利用などの需要拡大に期待が持てる。また、業界再編の動きも加速してきており、今後、企業業績の二極化が進むことが予想される中、いかにして自社の強みを伸ばしていけるかが重要になるとと思われる。

## 事務機・OA 関連

6月単月では、文教市場での買い替え、自治体におけるIT設備投資（PC）が堅調であり、また、セキュリティの観点から金融市場において防犯カメラの買い替え需要も活発であった。複写機は引き続きカラー化が進んでいるが販売台数は横ばいとなった。プリンタは高速プリンタの需要が増え、それに伴うサプライ出荷は順調で、事務機・OA関連全体での売上前年同月比は101%となった。

先行きでは、7～8月の見通しとして、文教市場において夏休み期間中にPC教室の買い替えの需要が、前期と同様に見込まれる。しかし、民間・自治体等はこの時期の需要は厳しく、前年並みと思われる。

1月に登場したWindows Vistaは、魅力的な機能が強化されているものの、高いスペックを要求されるため、PCの買い替え促進材料までとはなっていない。

団塊世代の定年退職者がPCを買い求めても使いこなせない為に、パソコン教室が

盛況になりつつある。ビジネス市場においても、XP・2003 か Vista・2007 の選択においても XP・2003 バージョンがいまだ根強い。しかし、各PCメーカーも 2008 年上期中には Vista・2007 のみで出荷予定でありスペック対応に見合う技量習得が急がれる。

### 総合スーパー業界

6 月は好天に恵まれ、気温の高い日が続き、スイカ、メロン、飲料水、アイスクリーム、ビール等の夏型商品の動きがよく、また苦戦が続いていた衣料品も夏物衣料を中心に久方振りの活況で全般的に良好な売上状況であったが、昨年 6 月にタバコ値上げに伴う前倒し需要が発生した反動で、今年 6 月のタバコの売上は前年に比べて大きく減少し、グループ全体の既存店売上高は前年実績をわずかに下回った。

挽肉偽造事件の影響で、冷凍食品のハンバーグ、コロッケ、惣菜用のコロッケの売上が大きく前年割れとなっており、事件報道後のお客様の挽肉関連商品に対する敬遠傾向あるいは一連の中国製品の報道も加わり、食品全体に対する安心、安全を求める傾向は益々強まってきている。

6 月からの定率減税の廃止や、社会保険庁の年金問題の発生等の影響が家計にも次第に効いてくることが予想され、先行きの消費動向は予断を許さない。

### 飲食業

6 月の売上前年同月比は、93.4%となった。曜日廻りからすると前年をクリアしても良いはずなのだが厳しい状況にある。特にすすきの、札幌駅前地区は競合店の出店増で苦戦を強いられている。

先行きへの見通しとしては、7 月は参院選があるので、引き続き厳しい状況が続くものと思われる。

中国食品の安全性の問題は、当社にとっても悪影響を及ぼすものと思われる。

### 旅行業

6 月の売上前年同月比は、団体旅行が 27.9%増、個人旅行が 2.8%増と共に対前年を上回った。特に、国内一般団体が対前年比 35.6%増と好調であった。

売上増の最大の要因は、苫小牧で開催された「全国植樹祭」の取り扱いが大きかった。個人旅行においては、インターネットによる直販化が顕著な国内航空券及び宿券クーポンは減少したものの、海外個人旅行が好調で全体では 2.8%増となった。

先行きの見通しとしては、7 月～9 月の夏休み期間は個人旅行セールスの時期であるが、参議院選挙等の影響からか、出足が鈍くなっている。また、予約のタイミングが遅くなっている傾向がある。全国的には、今夏の旅行は過去最高とも言われているが、道内は前年並みであるといえる。

また、「北海道洞爺湖サミット」に関する宿泊予約センターが設置され、動きが出てきた。観光業界としては期待感と不安感が交錯しているというのが現状ではないかと思われる。

## ホテル業界

6月の売上は、全体としては対前年比15%増となった。宿泊部門では10%増、食堂5%増、宴会33%増と好調である。

利用人員は、宿泊部門では、観光シーズンに入り週末を中心に満室状態が続き増加した。宴会部門では、コンベンション利用のシーズンで好調に推移、ブライダルも前年並みとなった。食堂部門では、お祭りが続き入込みが低迷し減少した。

先行きへの見通しとして、宿泊部門は、夏休みのシーズンに入り家族、グループの需要が増え好調の見込。食堂部門も、ビールの季節となり気温と連動して売上増を見込んでいる。夏休みのファミリーの動きに期待している。宴会部門は、参議院議員選挙、お盆期間と宴会需要が枯れる月を挟み受注鈍化、ブライダルは、前年並みで推移すると見込んでいる。

景気回復傾向か、市内ホテルの7月～8月の週末の客室稼動が好調である。コンベンション需要も含め、観光、ビジネスと客室需要が高く満室状態が続いている。インバウンドの入込も順調である。

WEBでの宿泊販売数の増加が著しく、オンシーズンでも価格訴求の需要が多く、売上アップが難しい状況になっている。今後も、益々WEBでの宿泊予約が主流になると思われる。

## エネルギー業界

6月分の販売電力量は、オール電化住宅の普及拡大に加え、燃料価格高騰による自家発電から電力購入への切替や、「鉄鋼業」での需要増などから、23億7千4百万kWh、対前年伸び率は3.6%と高い伸び率となった。

特定規模需要以外の需要（自由化対象以外の需要）では、オール電化住宅の普及拡大に伴う時間帯別電灯（対前年伸び率11.5%）の加入増加などから、対前年伸び率は1.1%と堅調な伸びとなった。

特定規模需要（自由化対象需要）では、燃料価格高騰による自家発電から電力購入への切替に加え、産業用需要の「鉄鋼業」の需要増などから、対前年伸び率は5.3%と高い伸び率となった。

大口電力は、「鉄鋼業」（対前年伸び率17.1%）、「食品製造業」（対前年伸び率17.1%）の需要増などから、前年伸び率は8.9%と19ヶ月連続で前年実績を上回った。

## 定山溪

入込数、販売額共に前年同月より8%程度の上昇、特に中旬以降に集中して好調であった。また、海外からのお客様が前年より多かった。反面、道内、特に札幌市内の個人客が減少しているのが気になった。

先行きへの見通しとしては、夏場の観光客の予約は順調に入ってきているが、9月以降はまだ見通しが立っていない状況である。10月は当地にとってピーク時でもあり、期待が大きいだけに今から観楓会向けにセールスを行っているところであるが、反応はいまいちである。

温泉街挙げて、早朝ウォーキング、生ゴミの堆肥化による野菜の収穫で地物野菜を献立に上げるべく、料理研究会等、将来に向けての対策を行うと共に、冬期の学生のスキー研修旅行等、長期的視野に立った営業を行っていきたい。

札幌商工会議所  
札幌商業界動向調査結果（6月）

平成19年9月12日 発行

【お問い合わせ・照会先】

札幌商工会議所 総合企画部  
札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター  
TEL：011-231-1330 FAX：011-222-5215  
Mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp